

令和4年度 学校評価書（自己評価・学校関係者評価）

山形県立米沢工業高等学校〔定時制の課程〕

教育目標	働きながら学ぶことにより、「健康で心豊かな、創造力とたくましい実践力のある人間」を育成する。 (1) 心身の健康を促進し、感性が豊かで自主的に行動できる力 (2) 豊かな教養と基礎的な工業技術を身につけ、常に創意工夫をする力 (3) 勤労を尊び、互いに協調し、いつも明るく働く人間の形成 (4) 規律を重んじ、進んで社会と公共のために尽くす人間の形成 (5) 国際的な広い視野に立ち、郷土を愛し、日本国民としての自覚をもつ人間の形成	自己評価
		A: 達成 B: 概ね達成 C: やや不十分 D: 不十分

重点目標	評価項目	今年度の達成状況(％:肯定的評価)	自己評価	今後の課題	評価委員からの意見
1 学習指導の充実	基礎学力の定着	「昨年より勉強ができるようになった」と思う生徒67.5%(R2:63.7%、R3:78.3%)、保護者等74.3%(R2:65.5%、R3:67.7%)。学習意欲の喚起を促すPDCAサイクルが確立している教科は決して多くない。	B	一人一台端末の効果的な活用法を研究する。支援を要する生徒と理解力が高い生徒への指導の両立について研究する。	・学校統合を機に定時制としてのミッションとポリシーを設定される事を期待します。ミッションを達成するための展開方法(PDCAサイクルを回す方法)は学校で統一された方が良いのではないかと思います。
	授業の充実(年間出席率95%以上、授業への高い満足度)	後期中間の出席率95.5%(R2:90%、R3:88%)、「授業がわかりやすい」と思う生徒100%(R2:90.6%、R3:100%)。「昨年より勉強にやる気が出てきた」生徒77.5%(R2:69.7%、R3:64.8%)	B		
	教材の吟味と指導方法の工夫・改善	今年度全生徒に配付された1人1台端末の活用法を研究し、指導法の改善に取り組んだ。「先生は教材や教え方を工夫している」と思う生徒100%(R2:90.6%、R3:100%)	A		
	ものづくり活動や資格取得の推進	山形県定時制通信制生徒「作品展」では3名が入賞した。産業科を中心に資格取得に向けた指導を熱心に行い、ビジネス文書実務検定3級4/14人(29%、R3:59%)、2級2/2人(100%、R3:100%)合格、計算技術検定8/17人(47%、R3:78%)合格となった。実務代替では、3名が総合実践の修得に向け、就労と学習を継続している。課題研究を地域課題の解決に向けた学習につなげることはできなかった。	A		
2 生徒指導の推進	基本的生活習慣の確立(挨拶、礼儀、けじめ)	「学校は安心して過ごすことができる雰囲気がある」と思う生徒95%(R2:78.8%、R3:83.8%)。「先生方は、生徒の間違った行動をきちんと指導してくれる」と思う生徒90%(R2:84.8%、R3:81%)。	A	挨拶の励行などを通して生徒自らがより良い学校を作ろうとする雰囲気を醸成する。特別な支援を必要とする生徒が、安定した対人関係を築けるような指導の工夫が必要である。自家用車通学が増える傾向があるので、安全教育をより一層強化する。	・いろいろな事情がある生徒が多い中、全員に目を向けようとする姿勢が見られ、職員の皆様の大変さが伝わります。 ・第一は「ヤル気」の醸成であろうと思います。定時制に限らず、全ての世代で日本の義務教育(知識型)の弊害があちこちに出てきました。これを打破すべく後押しする4年間であることを期待します。
	いじめの早期発見・相談活動の充実を通したいじめ撲滅	個別面談や日常的な声かけ、SNS関連の講話の充実を図った。生徒対象の県下一斉アンケート調査(7月)では「いじめ件数2」であったが、生徒部と年次団が連携し、いじめの解消に向けて取り組んだ。「相談や悩みなどを気軽に先生に相談できる」生徒87.5%(R2:75.8%、R3:89.2%)	B		
	交通安全教育の推進(交通事故ゼロの達成)	コロナ禍のため交通安全実技講習会は実施できなかったが、交通安全講話を2回実施し、安全意識の高揚につなげることができた。衝突や接触事故は1件もなかった。	A		
	生徒会活動の活性化(リーダーの育成)	生徒会長を中心に円滑な行事の運営に努めた。また、他の生徒会役員も会長を支え、自分の役割をしっかりと果たすことができた。生徒会行事では、様々な生徒の意見を吸い上げ、例年にない新しい企画で盛り上げ、多くの生徒にとって思い出深いものとなった。	A		
3 進路指導の強化	キャリア教育の充実と継続的、計画的な進路指導	6月、11月に職業講話を全校生に実施した。キャリアカウンセラー派遣事業を4年次就職希望者に実施した。令和5年度入学生(総合学科)のキャリア教育総合実践プログラムの策定に取り組んだ。	A	キャリア教育を通して、社会性や責任感をさらに身に付けさせる。キャリアパスポートの活用や進路情報の提供の工夫について研究する。	・定時制教育に対するニーズは変化しているのかもしれませんが。社会のニーズが何なのか、本人のニーズは何なのか、家族のニーズは何なのか、通信制教育機関との違いは何なのかを示すことも必要なのかもしれませんが。ただし、双方またそれ以外の良いとこ取りでもいいと思います。現代のニーズに沿う、ニーズがある教育機関、教育機会にしていきたい。
	就労指導の充実と就労率70%以上	1月末現在の就労率は53.7%(R3:46.2%)である。長期間の就労が難しい生徒も、長期休業中短期アルバイトを経験した。	B		
	進路に関する情報提供の充実と進路目標達成率90%	4年次担任を中心に三者面談や就職指導を行い、1月末現在60%(R3:100%)の進路達成となっている。3年次生についても、ホームルーム活動の時間を活用して進路指導を行っている。	B		
4 健康と安全教育の推進	自己管理能力の育成	精神的不調による保健センターの利用の多さは例年通りである。今年度は外科主訴が昨年度より倍近く増加した。学校生活や人間関係等に緊張や不安を抱える生徒に対して、関係職員と情報共有をしながら少しでも適応できるように支援した。	B	外科主訴の増加を防ぐために、運動不足の生徒に対して、怪我防止の指導が必要である。スクールカウンセラーや外部機関等と連携をとり、個別対応が必要な生徒への支援を継続する。残食調査等の結果を踏まえ、正しい生活習慣を確立するための取組が必要である。	・1年次生の評価等、大変な対応があるかと思いますが、より丁寧に進めていきたい。 ・学力だけでなく、精神的な不調を持つ子どもが多く、先生の大変さが伝わります。
	食育を通した心身の健康意識の高揚	個々の生徒へのアプローチを行うため、残食調査・食育講話・食生活と健康に関するアンケート等を実施した。各種調査結果を活用し、栄養士が生徒全員と個別面談を行った。	B		
	特別支援教育の推進とスクールカウンセラーや医療機関等との連携	問題を抱える生徒について特別支援委員会でケース会議を実施し、支援策を検討した。組織的な対応が必要な生徒については、医療機関や外部機関と連携しながら、職員全体で共通理解を図った。8月30日に職員対象の特別支援教育研修会を実施し、思春期の精神保健について理解を深めた。	B		
	生徒面談による心身の状況把握と生徒理解	年3回の生徒面談で生徒の状況を把握し、わかば会議や職員朝会等で情報共有を図った。わかば会議が実効性のあるものとなるように、進め方を工夫した。	B		
5 環境整備の充実と地域との連携	学習環境の整備	「校内の施設は清潔で安全である」と思う生徒97.5%(R2:97%、R3:94.6%)、保護者等100%(R2:96.7%、R3:100%)	B	冷房が使用できる教室が限定的であり、夏季の学習環境の整備が大きな課題である。令和8年度の昼間定時制への移行を踏まえ、ETA組織のあり方について研究を継続する。「さくら連絡網」による一斉配信が定着し、安否確認等もスムーズに行われている。今後は、より一層有効に「さくら連絡網」を活用していきたい。	・定時制は生徒の心と体のケアをしっかりと考え、学校生活を送れるよう日々取り組んでいただけて本当にありがたいです。昼夜働きのながら学べる大切な場です。先生方の努力に感謝しかありません。本当にお疲れ様です。ありがとうございました。
	学校防災組織の確立	さくら連絡網を活用して、安否確認(訓練を含む)を行った。「本校の防災・危機管理体制は適切である」と思う教員100%(R2:73.3%、R3:100%)	A		
	教護会(PTA)活動の活性化、ETA(雇用主の教師の会)等との連携	「教護会活動(PTA活動)に関心があり協力している」と思う保護者等42.5%(R2:34.4%、R3:53.3%)。文化祭の教護会企画は保護者等の参加を可とした。ETA組織の今後のあり方について研究を進めた。	A		
	広報活動(情報発信)の充実	「PETA便り」を年2回発行し、学校ホームページでは学校の様子を積極的に発信した。「お便りなどで学校の様子がよくわかる」と思う保護者等94%(R2:55.2%、R3:87.1%)。さくら連絡網による情報発信が定着した。	A		
6 職員研修の充実	授業研究の推進	共通のテーマを設定し、「授業研究週間」において全ての教員が授業を担当し、職員全体で振り返りの時間を設けた。	A	令和5年4月から始まる新たな研修制度において、全校的な学び合い文化の醸成や、そのための協働的な職場環境づくりに関して研究を進める。	
	校内研修の充実	スクールカウンセラーを講師に招いて「学校いじめ対策組織」による職員研修会を実施したほか、特別支援教育研修会や教務研修会(e-教務、ICTの効果的な活用法)を実施した。	A		

評価のための取組	実施時期・期間	評価の高かった主な項目(肯定的評価が90%以上となった項目の主なもの)
生徒アンケート	令和4.12.15	○授業がわかりやすい ○先生方は悩みや相談に親身に対応 ○学校行事や年次行事に楽しく参加 ○先生方の指導が適切 ○就労への配慮や支援 ○校内施設の清潔や安全 ○体調不良や健康相談への対応 ○健康・安全に関する指導 ○給食の満足度 ○米工定に入学してよかった
保護者等アンケート	令和4.12.1~12.9	○米工定は子どもが安心して過ごせる雰囲気がある ○先生方による学校や社会のルール・マナー順守のための適切な指導 ○卒業後の進路についての適切な指導と情報提供 ○就労への配慮や支援 ○校内施設の清潔や安全 ○健康相談への対応 ○健康・安全に関する指導 ○保護者等への誠意ある対応 ○子どもを米工定に入学させてよかった
総括		多様なニーズを持つ生徒たちを適切に支援するため、全職員が互いに連携を取り合いながら教育活動にあたっている。その結果、小中学校で不登校を経験した生徒の多くが休まず登校し、充実した学校生活を送っている。今後も生徒一人ひとりを大切に丁寧な指導を実践し、「夢の持てる米工定時制」として、基礎学力の定着と「ものづくり」に代表される協働的な学びを推進していきたい。